# 名古屋柳城短期大学 2017年度 第一回 新生病院リトリート 報告書



協力:特定医療法人 新生病院、ナーシングホーム須坂、 新生礼拝堂、日本聖公会中部教区センター

## 目 次

写真で綴る 2017 年度新生病院リトリート	1
2017年度 新生病院リトリート 活動概要	6
巻頭言 第1回新生病院リトリートについて	7
参加者の感想	
参加学生より	8

翼ひろげた天使が 種子をひと粒手に持って 種子をひと粒手に持って 飛ぶのを止めて考えた。 「これが大きくなったなら、 すばらしい実がなるように、 どこへ蒔いたらよいのだろう」 数い主さま、それを聞いて、 にっこりわらっておっしゃった。 「私のために その種子を 子どもの心に蒔いておくれ」

でーガレット・ヤング 柳城学院 創設者

## 写真で綴る 2017 年度 新生病院! ルリート



















#### 2017年度 新生病院リトリート 活動概要

期 間 2017年8月21日~23日(2泊3日)

参加者 名古屋柳城短期大学の学生10名 引率教員4名

(保育専攻科1年生2名 保育科2年生7名 保育科1年生1名)

活動内容 長野県小布施町の新生病院・新生礼拝堂および須坂市のナーシングホーム須坂にてボランティア活動

	1日目 8/21 (月)	2 日目 8/22 (火)	3日目 8/23 (水)	
		6:30 起床 ①朝食作り ②準備	6:30 起床 ①準備 ②朝食作り	
7:00		7:00 朝食・片付け	7:00 朝食・片付け	7:00
		- 7:45 ミニコンサート練習(リハーサル)		
8:00	8:30 集合 名古屋駅エスカ方面「太閤通口」		│ 7:30 ボランティア活動 │ (スタートハウスおよび周囲の清掃・片付け	8:00
	銀の時計付近	8:45 朝の祈り(スタートハウス)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
9:00		9:15 ナーシングホーム須坂へ車で移動	9:15 朝の祈り(新生礼拝堂)	9:00
	- (ワイドビュー) しなの 5 号(長野行) 11:59 長野駅着	9:30 ナーシングホーム須坂到着、準備	   9:40 ボランティア活動	
10:00		10:00 ~ 10:30 ミニコンサート (3 階ホール) 10:30 ~ 個別にお話とハンドマッサー-ジ 11:15 ~ 11:30 ミニンサート (1 階デイサーピス) 11:40 ~ 12:00 施設説明 (施設長)	(新生礼拝堂の清掃)	10:00
11:00			11:00 帰宅準備	11:00
			11:20 記念撮影 出発 小布施散策	
12:00	12:22 長野駅発~ 12:54 小布施駅到着	12:00 新生病院へ車で移動	12:40 小布施駅集合	12:00
13:00	13:30 新生病院到着 昼食 (スタートハウス) メイブルのお弁当	金中、昼食とアイスクリーム 13:45 ミニコンサートとレクシェーションの準備	13:00 小布施発 長野電鉄 13:40 長野駅着 一時解散・長野駅お	13:00
14:00	オリエンテーション(スタートハウス ホール) 新生礼拝堂司祭・新生病院チャプレン	新生病院 1 階 通所リハビリ棟 自己紹介とミニコンサート (15 分)	よび近辺で昼食・買い物(各自)	14:00
45.00	金善姫先生のレクチャー	個別にお話とハンドマッサージ(45分)	14:40 長野駅改札口前再集合	45.00
15:00	施設見学(新生病院) 2グループ	3 東病棟レクリエーション・ミニコンサート(30 分)	15:00 長野駅発	15:00
16:00	(①3階東テラス ②4階屋上テラス) 菊池理恵先生到着	コンサート片付け 夕食の準備の手伝い(午後より新生礼 拝堂の信徒さんが準備)	(ワイドビュー)しなの 18 号 (名古屋行)	16:00
47.00				47.00
17:00		1月1日 日本中の(前上村本地)		17:00
10.00	17:15 夕の祈り(新生礼拝堂)	17:15 夕の祈り(新生礼拝堂)	10.05 7 4 2 5 5 5	40.00
18:00			18:05 名古屋駅着	18:00
10.00	夕食	新生病院職員・新生礼拝堂信徒の方々 と夕食・交流	18:10 解散   名古屋駅「太閤通口」銀の時計付近 	10.00
19:00				19:00
20:00	111111111111111111111111111111111111111	(スタートハウス)		20:00
20.00	片付け・温泉へ	A.M.		20.00
21:00	/	   片付け・温泉へ		21:00
21.00	21:45 1日の振り返り	/T           (皿水		21:00
22:00	21.30 1 日 V ) 以 V ) V	22:15 1日の振り返り	1.77	22:00
22.00		24.13 1日の扱り返り		22:00

<sup>※ 2017</sup>年10月4日(水)名古屋柳城短期大学の大学礼拝(13:10~)にて報告会を実施

### 巻 頭 言

#### 一 第1回新生病院リトリートについて ―

名古屋柳城短期大学キリスト教センター センター長 村 田 康 常

創立 120 周年を目前にした 2017 年の夏、名古屋柳城短期大学のキリスト教センターでは、新しい企画として「新生病院リトリート」を実施しました。この新企画は、保育科および専攻科保育専攻の学生たち 10 名と引率教員 4 名が参加して、2 泊 3 日の活動として実施されました。新生病院チャプレンで新生礼拝堂司祭の金善姫先生が現地で迎えてくださって、病院や高齢者施設での交流活動や清掃活動等を中心に学生たちが体験型ボランティアを実施するという内容です。

この活動は、昨年度までキリスト教センターが実施してきた「東日本大震災復興支援ボランティア」の被災地での現地活動が、活動拠点となっていた福島県新地町の仮設住宅と被災者支援センターが閉じられたことによって区切りがつけられたあと、これに代わる活動として企画されました。柳城と日本聖公会中部教区との関係を新たに築いていく試みの1つとして、また、短大の2年間で4年制大学とほぼ同じ単位数を取得し、5回の実習を経て幼稚園教諭免許と保育士資格を取得するという忙しい日々を過ごす学生たちが、日常を離れた環境に身をおいてあらためて自己自身やまわりの世界を見つめなおす機会となるように、この活動は「リトリート」と名づけられました。

参加した学生たちが何を得ることができ、また、何をもたらすことができたのかは、この報告書にそれぞれの言葉で綴られたものから読み取ることができます。全体として2つのことが参加者の活動の中で生まれてきたように感じます。1つ目は、保育を学ぶ学生たちにとって、この活動のひとつひとつが自分たちの学んでいることを人との交わりの中で発揮し、手ごたえを確かめる時間となったということです。病院や高齢者施設でのミニコンサートもレクリエーションも、ハンドマッサージをしながらの傾聴も、人との関わりの中で何かを実践し、共有し、何かを実現していくという保育にも介護福祉にも通じる活動です。このことを強く感じることができたのは、参加した学生たちの力によるところが大きいと思います。2つ目は、名古屋柳城短期大学が日本聖公会に連なるキリスト教主義大学だということの意味やつながりを実感したということです。小布施での今回の活動は、柳城の歴史に触れる旅にもなりました。新生礼拝堂で私たちを迎えてくださった信徒さんの中に、柳城の卒業生の方がお2人いらっしゃって、ホーキンス先生が校長・学長だったころの柳城の思い出を語ってくださいました。そのような出会いを通して、短大と各地の教会や幼稚園・保育園がつながりあっていることを感じられたのは、このリトリートがもたらした思いがけない成果でした。このつながりは、これから大事に育てていきたい恵みです。

この新しい活動が成功し、今後も継続発展させていこうという機運が高まったのも、陰の功労者である金司祭の働きがあってのことです。金善姫司祭の周到かつ丁寧な準備や病院・礼拝堂関係者との連絡調整のおかげで、学生も引率者も大歓迎のムードの中で実に貴重な体験をすることができました。キリスト教センターの教員や、今年度から柳城のチャプレンとして赴任してこられた大西修主教のサポートがあって、はじめてこの活動は具体化することができました。また、新生病院の職員のみなさま、新生礼拝堂の信徒のみなさま、お1人お1人が支え、迎えてくださったことで、参加者は3日間の貴重な経験を重ねながらこの活動を最後まで貫徹することができました。すばらしい出会いを用意して下さったナーシングホーム須坂の伊藤光子所長はじめ職員と利用者のみなさまには、大きな力と喜びをいただきました。そして、白雲龍様はじめメリット基金のみなさまには、震災ボランティア以来の変わらないご理解とご支援に励まされました。言葉には尽くせない感謝と尊敬の気持ちをみなさまにお伝えいたします。

#### 信州の地で繋がる思い

学籍番号:29H02 氏名:黒岩 茉由

短大1、2年次の夏季休業中には、毎年、東日本大震災 被災地復興支援ボランティアに参加してきました。普段の学 生生活では得ることのできない学びや、他学年の学生との交 流の場として、私にとって知らぬ間に大切な行事となってい ました。保育専攻科の学生となった今年度も、ぜひ実りある 夏を過ごしたいと思い、リトリートへの参加を決めました。

1日目、新生病院についてのレクチャー、施設案内をしていただいた後、2グループに分かれてガーデニング・テラス清掃を行いました。花を通した人と人との交流を大切にしている小布施町にある新生病院は、四季折々の花たちがテラスで大切に育てられています。今回、私たちはそのお手伝いをさせていただきました。私は、4階屋上テラスでの清掃活動を行いました。日差しの強い中での活動でしたが、汗を流しながらの清掃活動は、とても清々しい気持ちになりました。

2日目、ナーシングホーム須坂と前日にも活動させてい ただいた新生病院へお邪魔し、ミニコンサート・ハンドマッ サージ・レクリエーションを行いました。私たちは、この日 のミニコンサートのために、一緒に口ずさめる曲、人気のあ る朝の連続テレビ小説の主題歌を中心に選曲しました。その 中で最も印象深い曲が、長野県の県歌である「信濃の国」で す。参加する学生全員が初めて聴く曲であったため、音をと るところから練習を始めました。私はあまり「県歌」という 言葉に馴染みがなかったため、本番当日を迎えるまで、「本 当にこの曲を一緒に歌ってもらえるのだろうか」と不安な気 持ちもありました。1度目のミニコンサートを行ったナーシ ングホーム須坂で「信濃の国」を歌った時、私の目の前には、 一緒に歌って下さっている方、目を瞑って私たちの歌声を聴 いてくださっている方、涙を流して聴いて下さっている方の 姿があり、感動を覚えました。長野に住む方々にとって、「信 濃の国」は故郷の情景が浮かび、お一人お一人の過ごしてき た時間が流れている大切な曲なのだと実感しました。

ハンドマッサージでは、私たちの拙い手つきにもかかわらず、「気持ちがいい」と喜んでくださる姿に私たちも嬉しくなりました。手と手が触れ合うだけで、深く繋がれているような、豊かな気持ちになれました。

レクリエーションでは、長野県ご当地ビンゴ・クイズを行いました。長野県や小布施町について教えていただきながらゲームを進めることができ、私たちがとても勉強になりました。ビンゴになった際、全員で「ビンゴ」と声を合わせて言うことにより、場の一体感や楽しさが生まれたように感じました。ルール説明やレクリエーションの進め方など、対象

者により話し方や具体的なルールなどを調整する必要があるため、事前のシミュレーションが大切であると改めて学ぶ機会にもなりました。このレクリエーションに参加してくださった方の笑顔をたくさん見ることのできた時間でした。

この日のナーシングホーム須坂・新生病院での活動は、 コンサート等を見たり、参加してくださる方が少しでも笑顔 になってくだされば、楽しいと感じてくだされば嬉しいと考 えて企画しました。しかし、皆さんの笑顔や涙、温かさに私 たちが逆に元気をいただいたように感じます。この日の活動 を行うことができて、本当によかったと心から思いました。

2日目の夕食は、信徒さんが私たちのために夕食を食べながらの交流会を開いて下さいました。私は、新生病院で勤務されている先生方と同じテーブルで食事をいただきました。柳城が昨年度まで行ってきた東日本大震災被災地復興支援ボランティアについてお話させていただくと、先生が参加された阪神淡路大震災でのボランティア体験について教えて下さいました。被災地からは遠く離れた長野の地で復興に対する先生方の思いをお聞きすることができ、改めて震災復興について深く考えさせられました。その他にも、人間にとっての睡眠の大切さについて教えていただくなど、楽しくも、学びの多い食事の時間となりました。

交流会の途中、金先生のお声掛けで、信徒の皆様より私 たちに向けて、お話をいただきました。その中でも私たちの 大先輩に当たる、お二人の柳城卒業生の方からのお話は印象 深く残っています。今、こうして柳城の学生としてリトリー トに参加できていることを、とても誇りに思いました。信徒 さんからのお話を頂く中で、私がお話させてもらう時間も頂 きました。このリトリートを支えていただいいている感謝の 気持ち、新生病院・ナーシングホームでの活動についてなど、 まだまだお話しさせて頂きたかったことがありましたが、突 然のことで緊張してしまい、上手く私たちの思いを伝えられ たのか、今でもまだ不安に思っています。しかし、あの場で 学生を代表して思いを述べることができ、このような機会を 作ってくださった金先生には本当に感謝の気持ちでいっぱい です。この大きな感謝の気持ち、ここで信徒の皆様と出会え たことの幸せを聖歌に込めて、学生全員でサプライズミニコ ンサートを行いました。私たちの思いが通じる聖歌となって いればと願い、1曲1曲に思いを込めて歌いました。普段学 校の礼拝でも歌う聖歌ですが、同じ時間を共有している全て の方々と一緒に歌う聖歌は格別で、とても心が温かくなりま した。

3日目である最終日は、お世話になったスタートハウス、新生礼拝堂の清掃を行いました。3日間をともに過ごした仲間との清掃は、時間が経つのが早く感じました。感謝の気持ちを込めて清掃したことにより、心まで綺麗になったような気がしました。

このリトリートを通して、私は自分自身を見つめ直すことができました。汗をかいての清掃活動、私たちが逆に元気をもらったミニコンサートやレクリエーション・ハンドマッサージ、信徒のみなさんとの食事会、3日間の活動は、どれも日々の自分の姿、保育者としての自分の姿を見つめ直すきっかけとなりました。忙しい学生生活では得ることのできない

気持ちのゆとりや、やりがいが生まれた3日間でした。また、私たちの大先輩にお会いすることができたり、毎日朝・夕と礼拝に参加したことにより、柳城生としての誇りを持つことができました。それと同時に、今まで以上に柳城を大好きになることができた3日間でした。この経験を大切にし、今後の学生生活に励んでいきたいと思います。

そして最後に、ともにリトリートに参加した学生、引率して下さった先生方、現地で大変お世話になった金先生をはじめ、このリトリートに関わってくださった全ての方に感謝致します。本当にありがとうございました。

#### ボランティアを振り返って

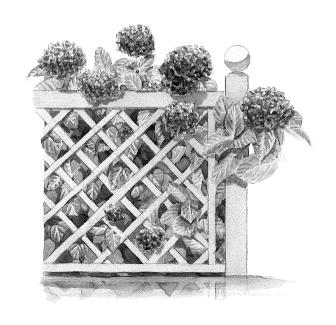
学籍番号:28D18 氏名:木村 マリ

今回私たちは長野県へ行き小布施町にある「新生病院」という病院と、須坂市の「ナーシングホーム須坂」という施設でボランティア活動をさせていただきました。

私が小布施でまず印象に残ったことは、長野県に行くにつれ車窓から見える山々の景色が自然豊かで美しく、小布施駅に下車した瞬間、空気がとても澄んでいて気持ち良いと感じたことです。新生病院は「亡国病」として恐れられていた結核が蔓延した昭和初期、このような美しい風景の小布施の地で結核に苦しむ人々を救うため結核療養所として建てられました。カナダの聖公会の善意によって生まれ、「人を生かすために生きる」ということに人生を捧げた方々の志が受け継がれ、現在は地域密着型病院として地域に根付き「すべての人に仕える病院」として今なお、仕えていることを知りました。そのような病院設立に携わった方々の志を今も大切にしている新生病院やナンシングホームでのボランティアを通している新生病院やナンシングホームでのボランティアを通して「人に仕えるとはどういうことなのか」自分なりに考えることができました。

1日目は現地のチャプレン金さんから新生病院の説明を聞き、見学をしました。その後テラスで花を植えて病院のホールからガーデンが見えるようにし患者さんの憩いの場をつくりました。病院は入所されている患者さんにとって生活の場となるため、自宅で生活しているときのような居心地良く安心できる空間となるように様々な配慮が施されていました。面会は面会時間などに制限がなく、いつでも気の許す限り面会が可能となっているため患者さんやご家族の方の希望が尊重されるようになっていました。外へ出ることがほとんどできず、病院内で生活しなければならない方でも日々の生

活の中で日本の四季を感じられるように病院内のいたるところに季節を感じる飾り付けがされていました。また病院の庭には様々な花が咲き、患者さん自身も花を植えることができるためガーデニングを楽しむことができて、こころのケアもできるようになっていました。このように病院での限られた環境の中にいながらも「患者さんの心が少しでも安らぐように」という考慮がされており患者さんそれぞれの思いが尊重されていました。また入所・退所の際は病院内の祈りの部屋で希望者に祈りが捧げられていることを知りました。患者さんに対して幸せを感じて生きてほしいという思いを込めて日々の生活の中でも一人ひとりを大切にしているのだと感じ



ました。

このような新生病院のことを知り、人に仕えるとはそのひとの身体だけではなく心も元気でいられるように寄り添うことだと思いました。ことばや環境を通じてアプローチし、日常生活を送る中で患者さんが生きることに幸せを感じながら生きがいをもって生きられるように支えていくことはとても素晴らしいことだと思いました。この学びを通じて保育者を目指す私たちも自分の将来の仕事に生かしたいと思います。すべての子どもたちが一日一日に幸せを感じながら生き生きと生きることができるように、子どもたちの身体とこころを大切にできる保育者でありたいと思います。

2日目のボランティア活動では新生病院とナーシングホーム須坂へ行きました。リハビリ、通所している方々へ向けてミニコンサートを開き「故郷」や「夏は来ぬ」、長野県民から親しまれている県歌「信濃の国」などの歌を歌い、歌を通して交流しました。またハンドマッサージやレクリエーションを通して患者さんとお話をする機会もあり、長野県の様々

な魅力や歴史などを知ることができたとともに、これまで自 分が生きてきた長野という故郷への誇りを感じました。私は 2日目のこの交流を通して、これからの自分自身にとって大 事なことだと感じたことがあります。それは「相手が今まで 育ってきた故郷や歩んできた大切な人生を自分自身もその人 と同じように大切に思い、その人が大切にしていることや誇 りを自分自身も同じように大切にすることでこころが通じ る」ということです。新生病院の見学で患者さんが入所から 退所するまでの時間を少しでも幸せで良いものになるように なってほしいという思いを知り、自分自身もボランティア活 動で出会った方々との時間を大切にしようと思いました。ミ ニコンサートやハンドマッサージなど一つひとつの活動に心 を込め「すべての出会いを大切にしよう」と心掛けて取り組 んだこのボランティアでは、かけがえのない貴重な経験、学 びができました。これらの学びを生かし今後、保育者として 「すべての人に仕えることのできる保育者」を志していきた いと思います。

#### リトリートを振り返って 一出会いの大切さ一

学籍番号:29 H 05 氏名:田口 希美

私は、今回の信州リトリートの活動を通して多くの人や物 と出会うことがあり、出会いの大切さというものを改めて強 く感じることが沢山ありました。1日目は、信州の森林や多 くの果物の木、現地の教会のチャプレンである金先生、新生 病院の職員の方や利用者の方等と出会い、とても素敵な初日 を迎えることが出来ました。新生病院の歴史について金先生 にお話を伺い、新生病院には85年もの長い歴史があり、そ の中でも多くの方に愛され、見守り続けてこられた病院であ ることを知りました。ここにも、人との素晴らしい出会いが あったからこそ今現在の新生病院が存在しているのだなとい うことを感じました。テラスの清掃の中でも、普段、雑草と 言っている草にもきちんとした名前があるということを知っ たり、ミントの香る草花を楽しんだりと、自然との出会いの 大切さを学ぶことが出来ました。2日目は、ミニコンサート やレクリエーション、ハンドマッサージを通してナーシング ホーム須坂の職員の方や利用者の方と出会い、新生病院の方 とも再度出会い、心を通い合わせることの出来る素晴らしい 時間を過ごすことが出来ました。また、夕食時には教会の信 徒さんとの出会いもあり、柳城を卒業された垣内さんと林さ んのお2人の方にもお会いすることが出来ました。そのお2 人の方から当時の柳城についてのお話を伺うこともでき、2

日目を通して柳城は本当に多くの素敵な繋がりがあるのだなということを実感したと共に、素敵な方との出会いの恵みに感謝したいと思いました。3日目は、チャペルの清掃を通して、チャペルに心の底から改めて出会うことが出来ました。いつもとは少し違う雰囲気で新鮮に感じるチャペルに出会うという貴重な経験をさせて頂くことが出来て本当に良かったです。また、小布施町散策では現地ならではのお店や食べ物等に出会うことが出来ました。様々な出会いのお陰でとても楽しい賑やかな最終日となりました。

2泊3日と短い期間の中で、現地でしか味わうことの出来ない素晴らしい出会いを得ることが出来ました。「出会い」というものは、一つひとつのどれもが貴重なものであり、その時その時に私の中で噛みしめなければいけないということを、今回の信州リトリートを通して実感しました。そして、その時の出会いは1度だけですが、その1度だけの出会いを私の中で噛みしめることによって、今後の私や私の周りにいる人へ大きな影響を与え、生きていく上での大きな繋がりになっていくのだなということ感じました。そもそも、私が今回の信州リトリートの案内に目を向けず、その案内書に出会っていなければ、信州リトリートに参加することもなかったのではないかと思います。私が今回実感した出会いの大切さ

を、就職した際には、子ども達にも是非伝えていきたいと思っています。

最後に、今回の信州リトリートで一緒に活動することが出来た仲間や諸先生方との出会いに心より感謝しております。

#### リトリートを振り返って

学籍番号:28C37 氏名:成田 芙美恵

私は今回の新生病院リトリートに参加し、多くのことを体験し、学ぶことができました。

初日の八月二十一日は、新生病院の説明・案内を受けてから、病院のテラスのガーデニングと清掃のボランティアを行いました。ボランティアを行ったテラスは利用者さんが利用しているテラスということもあり、より細かいところまでやろうという気持ちになりました。私はテラスにある花壇の清掃を担当しました。そこでは病院のボランティアさんと一緒に作業をさせていただきました。草花に詳しくない私たちにどういったものが雑草であるか、抜いてもよい草花はどれかなどを丁寧に教えていただきました。清掃後は、はじめは雑草で覆われて見えていなかった色とりどりの花たちが見えるようになり、とても素敵な花壇になりました。

多くの体験の中でも一番印象に残っているのが二日目の八月二十二日のナーシングホーム須坂と新生病院で行ったハンドマッサージです。お話しをしながら利用者さんにハンドマッサージをさせていただき、短い時間でしたが自分自身も穏やかな時間を過ごすことができました。利用者さんとは長野についてのお話や昔、利用者さんが体験をしたことなどのお話を多く聞かせてもらいました。ハンドマッサージが終わった後、利用者さんから「手が前より動きやすくなったよ」「手があったかくなった」などの言葉をたくさんいただき私自身も嬉しくなれる時間になりました。今回のハンドマッサージのボランティアは、私たち学生がハンドマッサージをするだけの一方的な関係ではなく、利用者さんからも多くのことを教えていただき、双方的な関係を築くことができる体験ができたイベントであったと思いました。

ハンドマッサージを行う前に行ったミニコンサートでは、「ふるさと」「夏は来ぬ」などの昔ながらの曲や朝の連続テレビ小説の主題歌などをメドレーにしたもの、長野の県歌である「信濃の国」を歌わせていただきました。新生病院ではこれに合わせて聖歌を数曲歌わせていただきました。「ふるさと」「夏は来ぬ」「信濃の国」は施設の利用者さんの多くが一緒に歌ってくださり、会場全体が盛り上がりました。利用者さんの中には歌を聴いて涙を流してくださるかたもおり、私たちも目頭が熱くなりました。

最後のミニコンサートの後は利用者さんとレクリエーションを行いました。レクリエーションは長野のご当地クイズをし、その答えでビンゴをする、というものでした。いくつかのチームに分かれてどこかのチームが、一列ビンゴができたら終了というルールで始まりました。最初はチームの人たちでビンゴの紙に長野の有名なものを書き入れる作業をしました。三人いた利用者さんそれぞれが多くの長野の有名なものを上げてくれました。クイズが始まってからも一緒にクイズの答えを答えるなど一緒に楽しむことがでる時間となりました。結局私のチームはビンゴを作ることはできませんでしたが、最後に会場にいる人たち全員で「ビンゴ!」ということができてよかったです。

二日目の夕食は新生病院の教会の信徒さんたちとご飯を作り、たくさんのお話をしながら楽しい時間を過ごしました。教会の信徒さんの中には名古屋柳城短期大学を卒業された方もいて、在学中のお話や柳城女子短期大学初代学長であるフランシス・ホーキンス先生についてもいろいろなお話を聞かせていただきました。

この長野で行った二泊三日のリトリートでは多くのことに 関し、双方的な関わりを実感できたものでした。この二泊三 日で学んだこと、体験したことを今後の自分の保育や生活の 中で大切にし、活かしていきたいと思います。



#### 長野のリトリートを通して

学籍番号:28D03 氏名:飯田 麻衣

8月21日から8月23日の2泊3日で、リトリートに参加しました。参加前から、高齢者の方はどんな歌を知っているのか、どんなレクリエーションがいいかなどを相談し、楽しんでいただけるような出し物を考えました。練習を重ね、長野県小布施町に出発しました。現地での主な活動内容は、新生病院というキリスト教の病院に入所している高齢者の方やリハビリで通院している方、地元の信徒さん達との交流を行いました。

1日目は、現地のチャプレンである金先生から病院の歴史をお聞きしました。新生病院は87年もの歴史があり、「すべての人に仕える病院、癒しと看取りの医療」を行っています。7年間の募金活動を経て、カナダから来た人達によって結核療養場ができたそうです。古い歴史とカナダから来た人々によって創られたたくさんの人の思いが詰まった病院であることを学びました。

説明をお聞きした後、新生病院の中を案内してもらい、各病棟での過ごし方や亡くなった方、その親族の方への対応など細かいところまで学ぶことができました。その後は、2グループに分かれて3階テラスのガーデニング、4階屋上テラスの清掃を行いました。私は3階テラスのガーデニングを行い、室内から入院患者の方が見守る中、植木鉢に砂を入れ、日々草やトウガラシなどの花の苗を植えました。花の高さや、中から花を見たときにどのように配置したら綺麗に見えるかなどを考えながら作業をしました。作業が終わった後、入院患者さんから「綺麗になったね、ありがとね」とお言葉をいただき、とても嬉しい気持ちになりました。

活動が終わった後、夕の礼拝があり、私は司式者をやらせていただきました。初めての経験でとても緊張しましたが、毎週礼拝に出席しているため、流れを理解して司式者を行うことができました。

1日目は高齢者の方と直接関わることはあまりありませんでしたが、ガーデニングなどの作業をしていく中で、 入院患者さんが生活する環境が明るくなっていくのを感じることができました。そのような作業に関わらせていただきとてもよい経験になりました。

2日目の午前中は、ナーシングホーム須坂というサービス付き高齢者向け住宅で活動を行いました。入所者の方にミニコンサートを披露し、一緒に歌ってくださったり、涙を流されたりしている方のお姿があったり、練習してよかったと満足したと同時に、涙を流されている方

のお姿を見て、私自身も涙を流してしまうこともありました。その後はミニコンサートを見てくれた方のお部屋にお邪魔し、ハンドマッサージを行いました。ハンドマッサージをしながらお孫さんの話や、趣味の話を聞く中で、俳句を毎日日記代わりに書いていることを教えていただきました。その俳句に今日の出来事や私自身のことを書いてくれて、とても嬉しい気持ちになりました。

ナーシングホーム須坂は、地域密着型の施設で、住所を移して入所している方もいらっしゃいます。医療度の高い方も安心して入所でき、なるべくお家に近づけられるよう、自宅からたくさんの物を持ってきてもらっているそうです。

午後は新生病院に戻り、通所リハビリ施設でのミニコンサート、ハンドマッサージを行いました。たくさんの方との交流ができ、手を振ってお見送りしてくれた時はとても嬉しかったです。最後に行ったミニコンサートでは、「ありがとうね」と涙を流しながら感謝の言葉を言っていただき、やってよかったと改めて感じることができました。長野のご当地 BINGO のレクリエーションを行い、入院患者さんに「どんな食べ物が有名ですか?」などと質問し、会話を楽しみながらレクリエーションができたと同時に、長野の歴史をたくさん教えていただくことができました。

夕方からは、地元の信徒さんと礼拝を行い、信徒さん 達が作った夕食を一緒にいただきました。いろいろなこ



とをお話したり、一緒に写真を撮ったり、楽しい時間を 過ごすことができました。柳城の卒業生の方もいて、柳 城の歴史も学ぶことができました。最後にサプライズで ミニコンサートを披露しました。全員が一緒に歌ってく れて、信徒さん達の温かさを感じることができました。

3日目は、2日間お世話になったスタートハウスの清掃、教会の清掃を行い、すべての活動を無事に終えることができました。金先生をはじめ、今回のリトリートの活動に協力してくださった方々に感謝の気持ちを込め清

掃を行うことができたと感じています。

今回のリトリートは、「何かをやり遂げるというよりは自分自身を見つめ直す」という意味が込められていて、私自身その目標を達成できたと思っています。たくさんの方に元気を与えることができたし、何より私自身もたくさんの方との交流を通して、元気をもらうことができました。この経験を今後の保育の現場、また高齢者の方々と関わるような機会で役立てていきたいです。

#### 見えないけれどもつながっている世界

学籍番号:28D05 氏名:伊藤 理花

今回の新生病院リトリートに参加して、人と人とのつながりは、見える部分だけでなく、見えないところでもつながっていることを現地で学びました。

昨年、私は東日本大震災の復興支援に参加しました。そこで、人は誰かのために力を注ぐと考えるのではなく、お互いが楽しんだり、考えたりすることで相手を知り、自分自身も成長できることを学びました。

しかし、この学びを活かす機会はあっても、行動に移すことは私にとって簡単なことではありませんでした。なので、今回のリトリートの活動の中で人と関わることの意味を探したいと共に、自分自身を見つめたいという思いで参加を決意しました。

今回の新生病院リトリートの活動の中で一番の活動は病院の利用者に歌を届け、ハンドマッサージを通して利用者の方一人ひとりと交流をすることです。歌を届けるミニコンサートは初めての経験だったため、私自身緊張していました。しかし、その不安は私たちの歌を聞いているお年寄りの方々の表情を見て、不安から温かい気持ちに変わりました。利用者の方々は、様々な表情をしていました。笑顔で時折涙を流している方、寝たきりで聞いてくださっている方は、表情は変わらなくても指をリズムに合わせて叩いているなど、様々な姿がありました。

私はこのような姿を見て正直驚きました。自分たちがしている活動が、聞いている方一人ひとりの心の中で、私たちの歌を受け止めて下さっていると分かったからです。本番を迎えるまで、私は聞いて下さる人に歌でゆったりとした気持ちになってほしいと思っていました。実際は、利用者さんのそれぞれの思い出を振り返り、一緒に歌う方もいました。その姿を見て私は涙がこらえきれなくなりました。このことか

ら、人は人と関わることで自分の知らなかった事を学ぶことができることはもちろんですが、自分たちが練習してきたことや作ってきたことを自分自身だけで満足するのではなく、受け止めて下さる人がいるからこそ新たに発見するものがあると知りました。

これらのことから、日々の生活の中で、自分の将来などは自分自身の考えをもって行動することが必要不可欠です。しかし、心の面では自分自身の考えのみでは新たな発見をすることは難しく、自分以外の人の気持ちを知ったり、表情から読み取ろうとしたりすることが大切なのではないかと感じました。これは、家族、友達、先輩、今回リトリートで出会った方々など自分と関わった人全てに当てはまることだと思います。

また、病院で出会った高齢者の方々だけでなく、私達に 宿を提供して下さった金善姫チャプレンや地域の方々の見え ない支えがあることを知りました。二日目の食事会で一緒だ



った方は私達が長野に来ることを知って枕カバーを人数分縫って下さったこと、布団を手分けして集めて下さったことを知りました。この話を聞いたとき、会ったことがない人にもかかわらず、相手を思い、提供して下さったことに驚きました。もしも私が現地の方の立場であったら、同じ行動はできないなと感じました。しかし、今回様々な方と出会って、人のために何か行動をする時、その人自身が笑顔で生き生きしている姿が共通していることに気付きました。私も今後の生

活の中でたとえ誰も気づいていない事でも、自分自身が楽しいと思い、笑顔で生き生きとしていたいです。また、同じような立場の人がいた場合は感謝の言葉をかけることを忘れずにいたいです。

このことを成し遂げることは、行動するまできっと時間がかかると思います。しかし、今回リトリートで感じたことを胸に少しずつ成長できるようになりたいです。

#### 新生病院リトリート

学籍番号:28D23 氏名:佐藤 愛結美

「今回は『リトリート』という名前の通り、小布施町に行って、何かを成し遂げる!というより、自然豊かな町に行き、心にゆとりをもって過ごすことでリラックスしたり自分自身を見つめ直したり、そんな時間にできたら……」そんな話を聞きながらも、やはりボランティアである以上、新生病院やナーシングホームで過ごす方々に何かを与えられたらと考えながら今回のボランティアやその準備に臨みました。

1日目。初めに新生病院の自然豊かな敷地内にあるスタートハウスという場所でオリエンテーションを受けました。そこでは新生病院の今に至るまでの生い立ちやキリストの教えに基づいた基本理念などについて学びました。その後、新生病院の施設見学をさせていただきました。

新生病院の一階には一般的な病院にはない「礼拝室」が設けられています。そこは日常的に利用される場所ではなく、亡くなられた方の看取りの礼拝を行うときに利用されるそうです。礼拝を行う際には院内アナウンスで職員に知らされます。そのアナウンスを聞いた手の空いている職員は礼拝室へ集まり、亡くなられた方の親族とともに礼拝を行なうとのことでした。こうして、この病院で亡くなられた方は親族のみでなく、たくさんの人に見守られながら、また、想われながら看取られるそうです。「癒しと看取りの医療」という新生病院開設時の想いはこのようにして現代でも実現されているのだと感じました。

見学後に、今回のボランティア最初の活動である、新生病院病棟テラスでのガーデニングと清掃をグループに分かれて行ないました。清掃のグループは、現地のボランティアの方に雑草とそうでないものを教えていただきながら病院の屋上テラスの花壇の草取りなどを行ないました。初めは花壇に咲いている花が認識しづらいほどでしたが、活動を終える頃にはきちんと花たちが顔を出していました。

2日目。この日の主な活動は、高齢者施設でのミニコンサートです。事前に話し合いや練習を重ねていたものだったので、朝から少しだけ緊張していました。急な予定変更が多く緊張感がさらに高まりました。

少しでも何かを感じてもらえたら……、何かを届けられたら……、そう思うと自然と視線が手元の楽譜から外れ、入院患者さんお一人お一人の顔を見ながら歌っていました。コンサートが進むにつれ、緊張感よりも今日初めて会った目の前の方たちと同じ空間、同じ時間を共有することができたことへの感謝の気持ちが大きくなりました。また、それを楽しんでくださって、小さく頷きながら聴いてくださる方、一緒に歌を口ずさんでくださる方、軽く握った拳を動かしながら楽しんでくださる方、涙を流しされている方……気づいたら、何かを与えようとしていたはずが、私のほうが与えられていました。

その日の夕食は、1日目からお世話になっていたチャプレンの金善姫さんに加えて、新生病院の職員や新生礼拝堂の信徒さんも一緒に楽しく会話をしながら食事をしました。食事会で隣に座られた方は、清掃活動時に様々なことを教えてくださったボランティアの方でした。たくさんの思いが心の中にあったはずなのに、学校の話や家族の話など他愛もない会話を交わしました。まだ出会って数時間しかたっていないのに、会話も弾み、食事会全体の雰囲気を見ていても和気あいあいとしていました。この食事会は人の繋がりや温かみ、「一期一会」を感じるものでした。

3日目は、2日間使わせていただいたスタートハウスや礼拝堂の清掃活動を行ないました。清掃をしながら今回の「新生病院リトリート」で感じたものが次々と思い出されました。それと同時に、感謝の気持ちが強まり、清掃活動に一層力が入りました。言葉にこそしていませんでしたが、清掃活

動を行なっていたほかの学生も同じように感じたのではないかと、みんなの姿を見て感じました。

清掃活動を終え、名古屋に戻り引率教員から今回のボランティアをまとめる話を聞きながら、3日前に同じ場所に集合して、「これから小布施町へ向かいます」という話を聞いていたのがつい昨日のことだったように感じて、不思議な気持ちになりました。それだけ時間が早く感じられたのは、ボランティア前の先生の話のように「リトリート」をすること

ができたからだと思います。

新生病院リトリートで感じた、人の繋がりの奥深さや温かみなどを、今後の生活の中で多くの人に感じてもらえるようにしたいと思います。保育者として働くときには一人ひとりが大切な存在で愛されているのだと感じられるような、愛にあふれた保育をしていきたいです。また、自分自身も一瞬一瞬の出会いを大切にして過ごしていきたいと思います。

#### すべてのことに"ありがとう"

学籍番号:28D25 氏名:澁谷 彩似

長野県の小布施というところに、二泊三日でボランティアに行ってきました。事前の準備では、ミニコンサートで歌う曲の練習をしたり、ハンドマッサージについて学んだりしました。準備をする時間は限られており、短い時間でしたが、一緒に行く仲間とともに、楽しみながら行うことができました。

小布施へ向かう電車の窓から見える景色や、新生病院まで の道のりは、緑豊かで、自然に囲まれていました。また、小 布施の昔ながらの町並みには、どこか懐かしさを感じました。

新生病院に着き、チャプレンである金さんと初めてお会いした時、元気な方だと感じました。日本語が上手く、新生病院の沿革や現状等についての説明もしてくださり、実際に病院内の案内もしていただきました。

一日目の主な活動は、病院にあるテラスでの作業でした。 二つのグループに分かれ、雑草抜き又はガーデニングを行いました。私のグループでは、金さんの指示のもと、プランターに花を植えました。経験はあったものの、土の種類や方法が違ったので、新鮮なことばかりでした。植える前に、土を入れたプランターの上に、ポットに入ったままの苗を置いていきました。レイアウトを考えるためです。すべての花を並べた後に全体を見渡すと、私たちが並べた花は、同じ種類で固められているもの、色が似ているものが多かったです。反対に、金さんが並べたものは、ひとつのプランターに同じ種類の花はなく、様々な花が一緒になっており、自由という面白さに気付くことができました。

二日目には、ミニコンサートとレクリエーション、ハンドマッサージを行いました。ミニコンサートは、ナーシングホーム須坂というサービス付き高齢者向け住居で二回、新生病院で二回行いました。私たちの歌を天使の歌声だと喜んでくださる方、ありがとうと何度も伝えてくださる方、涙を流

してくださる方等、様々な方がおられました。また、ほとんどの方が一緒に歌を歌ってくださったので、私たちだけでなく、全体が楽しんでいることを実感できました。特に、長野県の県歌である信濃の国は、思いのほか盛り上がりました。回を重ねるごとに、緊張や不安が楽しいという気持ちに変わっていき、歌を通して、沢山の方々に私たちの思いや元気を伝えられたように思います。改めて、音楽の素晴らしさを感じました。

その日の夜、金さんと、信徒の方々と、夕食をいただきました。そこで、何年も前に柳城を卒業された方と出会い、お話をうかがうことができました。食事会も終盤になったころ、最後のコンサートを行いました。金さんはじめお世話になった方々に、感謝の気持ちを込めて歌を贈ることができ、良い思い出となりました。

最終日は、三日間使わせていただいたスタートハウスという建物と礼拝堂の掃除をしました。建物だけでなく、私の心も綺麗になっていくようでした。

本来は、与えるはずのボランティアですが、今回のリトリートでは、私自身が多くの学びと感動を与えられました。初めての足踏みオルガンやハンドマッサージ等、新しい経験をすることもでき、携わってくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。沢山の協力があったからこそ、三日間何事もなく、楽しく過ごすことができました。リトリートは私に、当たり前なことに感謝をする気持ちを思い出させてくれました。

#### ボランティアを振り返って

学籍番号:28D29 氏名:田川 有咲

人との出会いで自分の人生は変わり、考え方が広がりました。 そして成長します。

今回私は、長野県の小布施駅を降り徒歩15分のところにある新生病院でのボランティアに行きました。電車に揺られながら窓の外を見てみると、緑が生い茂っているのが印象的でした。小布施駅に到着し辺りを見回すと、草花が咲いています。住宅にはガーデニングをしている家庭が多くあり、町中花に囲まれている様子が見えました。また、山が町を囲んでいるようでした。

宿泊施設であるスタートハウスに着くと、メイプルというお店のお弁当をいただきました。食事が終わると、小布施町の歴史や、新生病院の歴史を学び、これから二泊三日どのように過ごしていくかを考えていました。どのような人がいるのだろうか、人と関わっていけるのか、そんな不安を抱きながらも、新生病院のオリエンテーションを受けました。

オリエンテーションが終わると、新生病院の施設見学があります。大きな庭があるのが特徴的です。緑豊かでたくさんの草木が生い茂っていました。

施設内は、利用者の方の症状にあった環境の整備をしており、患者さんが心身ともに快適で過ごせて、安全で安心な環境であると感じました。施設内、庭ともに、バリアフリーになっており、お庭はお散歩コースにもなり、リハビリできるような環境です。

お庭のガーデニングや、室内の飾り物はボランティアの 方々が協力しています。そのほかにも、生け花や壁面なども ありました。

施設見学が終わったら、テラスにある花壇の清掃と、テラスから利用者の方が花を見て元気が出るよう、テラスの花壇に花を植える手伝いをしました。私は園芸サークルに所属しているため、花壇に花を植える手伝いをしました。大学で取り扱ったことのないような花が沢山あり、戸惑うことがありましたが、基本的なことは同じ要領で行ったため、スムーズに作業が進みました。土の入った重たい袋を持ち上げてプランターに注ぎ込みます。肉体労働ではありますが、花壇は利用者の方の目線や色の配置などを気にして造り上げました。利用者の方が私たちに何をしている人なのかと問いかけられることがあり、その時に、きれいな花壇をつくってくれているのだよ、と看護師の方が会話していました。それを聞き、ある言葉を思い出しました。誰かのために行う、というよりも、自分がそうしたい、と思ったから行動することが大切なのだろうと考えます。

一人で花壇を作っているわけではないため、どうしても、 意見のぶつかり合いは生じます。独りよがりにならないため にも、人の意見もちゃんと聞き、自分の意見もわかりやすく 伝えることが大切なことです。花壇が出来上がった時は、達 成感とともに、充実感がわいてきました。効率よく物事を進 めるためには、自分の力だけでは足りなくて、仲間と協力す ることで達成されるということを身をもって感じることがで きました。

タべの祈りでは奏楽者であったため、ピアノで練習をしました。しかし、スタートハウスの隣にある教会のオルガンはペダルを踏んで空気を送り出すオルガンです。私は足踏みオルガンを弾くのは初めてであったため、戸惑いうまく空気を送れずにいました。引率の教員と、学生が足元にあるペダルを押してくれました。何事も経験だと改めて感じました。

二日目は、ナーシングホーム須坂という老人ホームでミニコンサートを行いました。ミニコンサートでは、歌の披露をしました。利用者の方が元気になるようにという、意図でミニコンサートを行ったところ、利用者の方は感動して涙を流してくださったり、ふるさとを思い出したりしてくださりました。感情移入してしまった私も涙を流してしまいました。一緒に歌ってくださる利用者の方々は大勢おり、施設内一体となって歌うことができました。長野県の代表曲でもある、「信濃の国」という曲を長野県に来る前に練習して、利用者の方と一緒に歌えたら楽しくなるだろう、という思いでした。案の定、利用者の方、職員の方は喜んで一緒に歌ってくださりました。

ミニコンサートが終わった後はハンドマッサージを行いました。利用者の方と関わることができる機会です。利用者の方の手をマッサージしながらお話をすることができました。自分の娘さんや息子さんの話や、その娘さんが孫を生んでくれた話など、喜ばしい話をしてくださりました。反対に、今どんなことで苦しんでいるのか、悩みを話してくれました。病院での生活はやはり寂しいものがあり、寂しい思いを埋めてくれるのは、人であることを学びました。利用者の方が貴女に会えてよかったよ、と声をかけてくださった時私は私でいていいのだという思いがありました。自分自身気持ちが確立できていない部分もあり、他人と比較してしまう部分があります。そんな時のたわいのない会話だったと思いますが、あの時の自分には、重く感じた言葉でした。

スタートハウスに戻り夕食を摂ります。信徒さん達と一緒 に夕食の準備をし、一緒に食事をします。老若男女合同で食 事をしました。年代も別々であったため、いろいろな話をすることができました。

スタートハウスに招いてくださった心優しい思いに非常 に感謝しています。私たちが宿泊すると聞いて、布団や、枕 を提供してくださいました。食事の用意など信徒の方々が教 会に集まって用意してくださいました。

今回行ったボランティアで人との出会いが大切であるこ

とを学びました。宗教の違い、故郷の違い、言葉の違い、考え方や価値観の違いなど、様々な違いがあっても、その人であることは変わりません。今までの自分の人生観の視野の範囲だけでは狭すぎることに気づきます。これからもボランティアに参加することで普段出会えることのできない出会いをして人生観を育てていきたいです。

#### リトリートを振り返って

学籍番号:29B25 氏名:田代 結

私はこのリトリートで、人とつながることの温かさと、 素晴らしさを感じました。

ナーシングホーム須坂と新生病院、信徒の方との食事会で行ったミニコンサートでは、聴いてくださる方が、一緒に歌ったり、口を動かしたり、寝ていても体でリズムをとったりしてくださる姿を見ると、ただただ感動で胸がいっぱいになりました。そして、だんだんと互いの心が近づき、部屋全体で、皆の気持ちが一つの温かいものなったときは、感動的でした。自分が柳城生としてその一部でいられ、初めて会う方と同じ空間を味わえたことが嬉しかったです。特別な道具はなくとも、心からの、自分ではない誰かにも幸せになってほしい、と願う気持ちがそこにあったのだと思います。

また、信徒の方と行った礼拝では、遠く離れた地でも、同じ言葉で聖歌を歌っていると思うと、そのつながりを嬉しく思いました。これから歌うたびに、このとき共に歌った方だけでなく、世界中の祈りをささげている方のことが思い浮かぶだろうと思います。各々の祈りが、天に届くまでに結ばり、一つになっていることを知りました。

また、幾十年も前に柳城を卒業された方にお会いでき、柳城の歴史を初めて自分で感じました。70年前に卒業された林さんは、本当に良い先生に教わった、いつも良いお話をして下さった、とおっしゃいます。私はそのように先生を敬い、素直に教わることを大切にして、学べているでしょうか。そうでない自分が恥ずかしく、柳城を受け継ぐ学生としての責任も感じました。70年前と現在では、学ぶことの価値にも差があると思いますが、私は今、与えられているもののありがたさに気づかせて頂けたことが恵みです。学びを大切にし、巡り合えた柳城の歴史も深く知りたい、と思いました。

そして、ともに過ごした先生、先輩と、普段はもてない 交わりをもてたことを幸せに思います。さまざまな場面で、 学年の隔たりなく優しく声をかけて頂き、嬉しかったです。 先輩方の、言われる前に自分ができることを見つけ、率先して誰かのために一生懸命になる姿に感動し、私もそんな風になりたい、と思っていました。ひとりで、自分の内で考えるよりずっと、そんな交流が心を前向きに変えてくれたようです。

そして、このリトリートに携わり、私たちのために時間を割いてくださった先生、学長先生、聖公会を中心とする方々に感謝いたします。また、私たちの活動を快く受け入れ、計画し、準備から当日の送迎、案内、司会、料理にと、3日間休まず動いてくださった金先生にも、本当にありがたく思っています。まだ見ぬ私たちのために部屋を整え、布団を用意したり、枕カバーを縫ったり、おいしい料理や果物を持ってきて下さったりと、心からのおもてなしをして下さった、信徒、近隣の方々のお気持ちには感激しました。たくさんの方の愛情のこもった料理が並び、笑顔の仲間がいる食卓は、本当に幸せに満ちているようでした。

今回の体験は私にとって、日常から離れた中でリラックスし、心と体を整え、自分を再発見するというボランティアとは少し違った、「リトリート」となりました。数ある中から今の自分が進ませてもらった道で、出会うことができた人とのつながりを胸にし、これから勉強に励んでいきたいです。



発行日 2017年3月16日

編 集 名古屋柳城短期大学 キリスト教センター (宗教委員会)

発 行 名古屋柳城短期大学

〒 466-0034

名古屋市昭和区明月町 2-54

TEL 052-841-2635 代)

FAX 052-841-2697

印 刷 株式会社 日興商会